

29M-am10

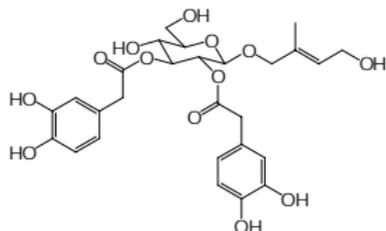
コウヤコケシノブ (*Hymenophyllum barbatum*) に含まれる苦味成分Hymenoside類の抗酸化活性

○荒川 悠樹¹, 豊田 正夫¹, 西沢 孝志², 柚 源一郎², 浅川 義範¹ (¹徳島文理大薬, ²徳島文理大人間生活)

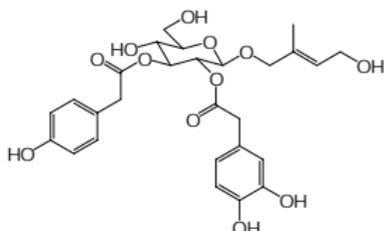
【目的】当研究室では、シダ植物コウヤコケシノブ(*Hymenophyllum barbatum*)に含まれる苦味成分の研究を行っている。今回は、苦味成分の単離および生理活性について検討したので報告する。

【方法】徳島県海部郡海陽町で採集したコウヤコケシノブを乾燥後に粉碎し、70% EtOH で抽出したエキスを EtOAc 層、BuOH 層、水層に分配した。各分画部において DPPH ラジカルを用いた抗酸化活性のスクリーニングを行い、強い活性と強い苦味が感じられた EtOAc 層について、活性を指標として Sephadex LH-20、SiO₂ カラムにより化合物を単離し、構造決定を行った。さらに、単離した化合物の抗酸化活性試験を行い、標準物質に DL- α -Tocopherol を用いて比較した。

【結果および考察】強い活性が認められた画分の分離操作を行ったところ、Hymenoside B および Hymenoside C を単離し、主成分として得られた Hymenoside B には苦味が感じられた。また、抗酸化活性試験においては両化合物とも DL- α -Tocopherol よりも強い活性を示した。他の画分については現在精査中である。



Hymenoside B



Hymenoside C